

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 金子 絵里乃

研究課題	子どものいる AYA 世代のがん患者の家族に関する研究	
報告の概要	<p>研究目的</p> <p>および</p> <p>研究概要</p>	<p>本研究では、がん患者とその家族を支援している医療ソーシャルワーカー20名に対してインタビューを行い、子どものいる AYA 世代のがん患者とその家族が直面する課題を明らかにし、MSW による支援を考察した。</p> <p>子どものいる AYA 世代のがん患者に関する研究は 1997 年に始まり、2010 年以降、徐々に研究が蓄積されている。2010 年以降から研究が増加した背景には、2015 年に「がん対策加速化プラン」の中にはじめて AYA 世代のがん対策が盛り込まれたこと、また、2018 年に「第 3 期がん対策推進基本計画」において AYA 世代のがん対策が明記されたことなど、AYA 世代のがん患者への支援の必要性が認知されるようになったことが関係していると考えられる。AYA 世代のがん患者に関する先行研究をレビューしたところ、患者の配偶者や子どもに関する研究がほとんどないことが明らかとなった。がんの発症は、患者だけではなく家族にも多大な影響を及ぼし、配偶者や子どもは患者とは異なる悩みや支援を求めていることが推察される。</p>
	<p>研究の結果</p>	<p>子どものいる AYA 世代のがん患者とその家族が直面する課題を分析した結果、16 のサブカテゴリーに分類され、6 つのカテゴリーが生成された。【患者の心理的課題】というカテゴリーは、〈家族に苦しみ姿を見せたくない〉、〈やりたいことができなくなる喪失感〉、〈遺される子どもの不安〉、〈生きたいけれど最後の生き方を決めなければならない葛藤〉の 4 つのサブカテゴリーで構成された。【患者の社会的課題】というカテゴリーは、〈周囲に頼れる人がいない〉、〈教育とつながれないつらさ〉、〈日常生活とがん治療の両立の困難さ〉の 3 つのサブカテゴリーで構成された。【患者の経済的課題】というカテゴリーは、〈制度が使えないことによる経済的な不安〉、〈就労できるかという不安〉、〈遺された家族の生活への不安〉の 3 つのサブカテゴリーで構成された。【家族の心理的課題】というカテゴリーは、〈子どもへの告知の不安〉、〈自宅での看取りへの不安〉、〈生きてほしいけれど叶わない現実に向き合う葛藤〉の 3 つのサブカテゴリーで構成された。【家族の社会的課題】というカテゴリーは、〈周囲に頼れる人がいない〉、〈きょうだい児の苦しみ〉の 2 つのサブカテゴリーで構成された。【家族の経済的課題】というカテゴリーは、〈患者が亡くなった後の経済的な不安〉の 1 つのサブカテゴリーで構成された。</p>

<p style="text-align: center;">研 究 の 考 察 ・ 反 省</p>	<p>(1) がん患者とその家族が抱える課題        AYA 世代の人は、進学、就職、恋愛、結婚、出産、子育てなど、様々なライフステージを歩んでいる。転機となるような出来事が重なる中でがんを発症すると、将来を含めた生き方を見直すこととなり、中高年とは異なる AYA 世代特有の多種多様な悩みに直面する（金子 2022）。本研究では、AYA 世代のがん患者は、やりたいことができなくなる喪失感や、生きていけれど最後の生き方を決めなければならない葛藤を抱えていることが明らかとなった。家族も、生きてほしいけれど叶わない現実に向き合う葛藤を抱えていた。また、患者と家族が共通する社会的な課題として、周囲に頼れる人がいないことが挙げられる。家族や実家の両親など身近な人がサポートしていることもあるが、社会的に孤立している患者やその家族がいることが考えられた。患者の心理的課題として、自分自身のことよりも家族を思い、家族に苦しむ姿を見せたくないことや、遺される子どもや家族の生活への不安を抱えていた。家族の心理的課題として、子どもへの告知や自宅での看取りへの不安があることが明らかとなった。</p> <p>(2) 若年性のがん患者と家族に対する MSW の支援        国の制度として、20 代～30 代の AYA 世代のがん患者に特化したものがない。本研究でも、AYA 世代のがん患者とその家族の多くが、公的制度が使えないことによる経済的な課題を抱えていたり、周りに頼れる人がいないなど、社会資源がないことによる悩みを抱えていた。このような状況において、MSW はフォーマルな社会資源（児童相談所、訪問サービス、教育機関など）を活用して、支援の方向性を模索することやつなぐこと、各種制度の申請を手伝うこと、また、インフォーマルな社会資源（支援団体やボランティアなど）を探して、つなげるという支援を意識的に行っていた。また、生きていけれど最後の生き方を決めなければならないという患者の葛藤や、生きてほしいけれど叶わない現実に向き合う家族の葛藤に対して、MSW は「どういう生活をしていきたいか」、「どこでどんな風な生活をしたいか」というように、患者とその家族の希望を聴くことや、できることを一緒に探すという支援を行っていた。</p>
<p>研究発表        学会名        発表テーマ        年月日／場所</p> <p>研究成果物        テーマ        誌名        巻・号        発行年月日        発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>金子絵里乃・佐藤繭美・澤田有希子「緩和ケアにおける若年性のがん患者とその家族が直面する課題と MSW による支援」第 15 回日本医療ソーシャルワーク学会長野大会、2024 年 10 月 6 日</p>